

第六十四回句会 俳句

【高点句】

- ☆コロナ禍の春定年も小事些事 〈青蛙〉
- ☆蜩汁無言の部屋の殻の音 〈郁代〉
- ☆梅雨の天気図松山はこの辺り 〈明美〉

【各自一句】

- ・汗だくの信号を待ち風を待ち 〈安津子〉
- ・六月や街に色増え音の増え 〈明美〉
- ・城壁の鋭角に添ひ夏燕 〈眞澄〉
- ・どつちみちステイホームで長梅雨で 〈伸子〉
- ・コロナの禍暮らし一変夏に入る 〈童心〉
- ・水槽の海月自由か不自由か 〈撫子〉
- ・花辛夷いよよ本番わが老ひの 〈千恵〉
- ・梅雨寒や外壁叩く鎖樋 〈静〉
- ・春筍のはちみつ色に剥かれたる 〈郁代〉
- ・毛虫居り嫁の弱点見つけたり 〈緑〉
- ・紫陽花の持ち帰り待つ小道かな 〈隆司〉
- ・春暁や飛鳥のお湯に身を沈む 〈哲雄〉
- ・耕牛の畜舎の中の耕耘機 〈一馬〉
- ・花曇り散歩し尽くし今日は右 〈青蛙〉
- ・紫陽花の色抜けてなほ禍の続き 〈莫院〉

\*以上、46句（3句ずつ15名、1句1名）より、選句は16名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句（今回は第2位が同点で2句）

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）